

第 6 学年 2 組 社会科学学習指導案

1. 小単元名

(1) 縄文のむらから古墳のくにへ

2. 小単元の目標

狩猟・採集や農耕の生活の様子、古墳、神話や伝承、代表的な文化遺産に関心を持ち、本や写真の資料、博物館や資料館などを活用して意欲的に調べ、新聞にまとめる。また、狩猟・採集や農耕が始まったところの人々の生活や社会の様子、大和朝廷による国土の統一の様子などを理解し、狩猟・採集や農耕の生活をしていた頃の人々の社会や生活の様子などについて思考・判断したことを適切に表現する。

3. 本時の学習指導

(1) 目標

○古墳が何のためにどのようにつくられたのか、教科書を使って調べる。

(観察・資料活用の技能)

学習活動	学習内容	評価と支援の工夫	資料・準備	時間
1. 教科書 20 ページ の上の写真を見て気づいたことを発表する。	○教科書の写真を見て気づいたことを明確にすることで、古墳への関心を持つこと。 ○なぜそうまでして大きいものを作ったのか疑問を持つこと。	○どんなことでもいいので気づくようにする。 ○できれば大きさを中心に古墳への関心を向けるようにする。 ○データを活用的に利用することで、より詳しいデータを集めようとさせる。	教科書 20 ページ	10
2. 本時の課題を書く。		○このとき説明する大仙古墳に関するデータを児童の関心を引くような内容にすることで、	・掘り出された埴輪の写真二枚。 (投影機で	5
何のために古墳はつくられ、それはどのようにして作られたのだろう。				

3. 教科書の大仙古墳に関する部分を読み、大仙古墳についてノートに調べてまとめる。 なぜ大きな古墳は作られたのか教科書や資料集を見て自分でノートにまとめる。 調べたものを発表する 4. 調べ学習のまとめをノートに書き写す。	○課題に沿った古墳に対する疑問を持つこと。 ○教科書や資料集でデータを得られるようになること。 ○社会科見学と関連を持てるようにする。	一度社会科見学で扱っている知識にプラスしようという意欲的な学習をできるようにする。 ○「何のために」と「それが」をはっきりすることで、課題と結びつくようにする。 ○円墳にふれることで、社会科見学の内容の復習ができるようにする。	手元の写真をディスプレイに映す) ・教科書 22, 23 ページ	1 0
古墳は、王や豪族が自分の権力を大きく見せるために、人々を働かせることで作り上げた豪族や王たちのお墓である。				1 5
5. 巨大な前方後円墳が多く存在するのは近畿地方であることを確認する。		○近畿地方ということばを出して話すことで、次回の学習の手助けになるようにする。		5

4. 備考 在籍児童数 40 名